

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
16109007	脂肪内分泌代謝学を基盤としたメタボリック症候群のトランスレーショナルリサーチ	中尾 一和 (京都大学・大学院医学研究科・教授)	A

脂肪委縮症に対するレプチンのトランスレーショナルリサーチに関して、我が国においてレプチンを実際に患者に投与するまでには多くの困難があったと想像され、それらを克服して脂肪委縮症患者にレプチン投与を実施した点は高く評価できる。

モデル動物を使用して、糖脂質代謝改善作用に肝 AMPK 情報伝達系活性化の関与を見出したことや、レプチン抵抗性や脂肪細胞機能異常の分子メカニズムに関しても若干の新知見を報告しているが、総体として「独創性」「新規性」の視点からは、やや物足りないと言わざるを得ない。また、「臨床応用」の研究についても、本研究がレプチンの他の疾患への臨床応用を誘発した、あるいは我が国における「トランスレーショナルリサーチ」を活性化したという印象はない。当初設定された研究目的である「メタボリック症候群を標的としたレプチンによるトランスレーショナルメディシンの展開」は、あまりにも高い基準であり、何処まで展開するかの期待が大き過ぎたがために、脂肪委縮症を対象としたレプチンの臨床応用でそれなりの成果が出ているものの、やや期待外れの印象を否めない。

しかし、動物実験レベルではあるが、1型および2型糖尿病に対するレプチン治療の有用性を証明しており、今後広範な糖尿病領域におけるレプチンの臨床治験も計画されていることから今後期待したい。